

P-073

放課後児童クラブの職員を対象にした緊急時対応におけるeラーニング教材の実用化への試み

高野 直美^{1,2)}、小池 啓子³⁾、山岸 智子⁴⁾、宮島 祐⁵⁾¹⁾群馬パース大学 看護学部 看護学科、²⁾東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科、³⁾埼玉医科大学 医学教育センター、⁴⁾防衛医科大学校 医学教育部 看護学科、⁵⁾東京家政大学

【背景】我が国の放課後児童クラブ（以下、クラブ）は、施設数及び登録児童数の増加に伴い事故も増加しており、安全性の確保や職員の適切な緊急時対応能力が求められている。しかしながら、職員への研修は自治体ごとに内容や開催数が異なり、クラブの質に関する課題が指摘されている。近年、eラーニングは学校や企業、自宅学習、遠隔教育など広く活用が進んでいる。eラーニングは、場所や時間を問わずに自己のペースで学習を進めることが可能であり、緊急時対応に必要な知識と判断力を養う手段として有効であると考えられる。そこで、医学的な専門知識が少ないクラブの職員を対象にインストラクショナルデザインの「ガニエの9教授事象」理論を援用し、ストーリー型のeラーニング教材を開発した。【目的】開発したeラーニング教材を試用し、実用化に向けた改善点と活用有用性を検討する。【方法】本研究はA大学倫理委員会の承認を得て実施した。eラーニング教材のコンテンツ管理システムはMoodleとした。対象者は、クラブの職員7人とこども学を専攻する大学生10人とした。ストーリー事例は、職員が日常的に遭遇しやすい状況を想定し、年齢や性別は疫学的な観点を加えて「気管支喘息をもつ小学1年生男児」とし、イラストや発作時の笛声音を挿入した。また、教材分析と受講者の属性との関連性を調査・検討するためWeb調査機能を加えた。調査機能に問題がないか確認するとともに、対象者から使用した意見や感想を収集した。【結果】2人に回答選択肢が反応しなかったというMoodle一部機能の不具合が発生した。意見や感想では、「ゲーム感覚で行えた」「正解しないと次に進めず、繰り返すことで学びになった」「知らないことを学ぶことができた」「イラストがあり、わかりやすかった」「スマートフォンでは見にくかった」との回答があった。【考察】本教材は、受講者の興味を引きつけ、繰り返し学習を促す設計が、緊急時対応に必要な知識の定着の一助になると考えられる。一方、Moodle一部機能の不具合や操作性の課題が示され、改善が必要であると考えられた。【結論】本教材は、クラブの職員の緊急時対応において有用となる可能性を示した。今後は、対象者を拡大したさらなる検証を行う予定である。

P-074

保育所における0歳から2歳の食物アレルギー児へのアナフィラキシー予防を意識した症状の判断と対処の実際

遠藤 幸子¹⁾、大西 文子²⁾、カルデナス暁東¹⁾¹⁾日本赤十字豊田看護大学、²⁾元日本赤十字豊田看護大学

【目的】保育所における0歳～2歳のFA（Food Allergy；以下FA）児に対するアナフィラキシー予防を意識した症状の判断と対処の実践状況を明らかにする。【方法】研究期間：2022年4月～2023年10月調査方法：A県内の公立認可保育所の0歳～2歳児を保育している保育所に勤務する園長5名、保育士5名、看護師5名を職種ごとに3グループに編成し、各職種で1回ずつFocus Group Interviewを実施した。インタビュー内容：0歳～2歳のFA児のアナフィラキシー予防を意識して、どのように症状を判断し対処しているか。分析方法：保育現場の状況に応じたリアリティのある具体的な対応方法を抽出するため、一次分析・二次分析・複合分析（安梅,2010）を実施した。本研究は所属機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。【結果】研究参加者のFA児対応の経験年数は、園長が4年～15年、保育士が3年～4年、看護師が3年～10年以上であった。3ストーリー場面にまとめ、17重要カテゴリーを抽出した。以下に【 】はストーリー場面、＜ ＞は重要カテゴリー、＜ ＞は重要アイテムとして説明する。【FA症状出現時の状況及び対応】では、＜症状の変化を見逃さないための保育中の観察＞＜FA症状チェック表に基づく経過観察及び記録＞を実施していた。＜症状出現時の対応＞は＜口の周りの発疹は写真と動画を撮る＞等、具体的な対応例が示された。【専門機関との連携】では、＜新規発症した場合に専門病院や近い病院を紹介する＞＜病院の複数情報を伝え、診断を仰ぐように保護者に伝える＞等の＜必要時、保護者への専門機関に関する情報提供＞をしていた。【FA症状の重症度に応じた対応のための準備】では、＜全職員による症状経過の判断と重症度に応じた対応＞＜園長、保育士、看護師による個別対応フローチャートの作成と活用＞＜FA症状出現の状況を想定した緊急時対応の準備＞等、日頃から備えとして実施していた。【考察】【FA症状出現時の状況及び対応】について具体的な実践の語りから、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン, 2019」における症状出現時の判断基準やFA症状への対応の手順、症状チェックシートを活用した対応が明らかになった。園長、保育士、看護師はFA児への個別対応として、FA症状の特徴や経過観察、保護者への適切な説明、緊急時の判断と対応、タイムリーな専門医への受診の勧め等、職種間で連携しFA対応していることが示唆された。